



幸せな贈り物

## 犯罪中毒 ユ・ヨン Chol、カン・ホス、チョ・ドウスン、キム・キルテ、キム・ス Chol、その次は？

2005 年以後サイコパス急増 2008 年 12 月 11

日、登校中だったナヨンちゃん(仮名：当時 8 歳)を拉致して、トイレで殴り失神させたあと、性的暴行を加え、一生消えない傷を残したチョ・ドウスン事件が忘れられる前に、6 月 7 日午前 10 時にヨンドウンポ区のある小学校で A (8 歳) ちゃんを凶器で威嚇して拉致し、500 メートルほど離れた自分の家に連れて行って無惨に性的暴行を加えたキム・ス Chol 事件が発生して国民を驚かせています。2006 年のヨンサン小学生殺害事件、2007 年のチェジュ小学生殺害事件、2008 年のヘジンとイエスル事件、2009 年のナヨン暴行事件、2010 年 2 月のキム・キルテ女子中学生拉致暴行殺害事件など、国民のすべてをパニック状態にさせるなかで 13 歳未満の児童の性的暴行被害者は 2005 年 738 人から 2009 年 1 千 17 人で毎年増加しています。性犯罪の再犯率も 2008 年 7.8% で、昨年の 8.1% から上昇の勢いを維持しています。今回の事件も、20 年前強姦の前科がある再犯の仕業だと警察は明らかにしました。一方、東亜日報にのせられた 1993~2010 年死刑囚の殺人犯罪類型分析を見れば、国内刑務所に収監された死刑囚は 61 人で、死刑囚の犯罪類型を 1990 年代後半(1993~1999 年)、2000 年代初期(2000~2004 年)、2000 年代後半(2005~2010 年)など 3 期に分けて変化の推移を調べた結果、時間が流れるほど犯罪はより一層、残忍になって、殺害の被害者数も増えました。犯罪の類型も報復から性欲と利欲を経て、サイコパス型に進化する様相を見せたと明らかにされました。

2000 年代初期死刑囚が確定された死刑囚 25 人の中で、半数を越える 13 人(52%)が金銭的利益を得るために殺人を行って、9 人(36%)は性欲を満たすために人を殺害しました。これは、1990 年代後半に怒りを耐えることができなくて犯行を犯した死刑囚が多かったことと差があります。1990 年代後半に 1 人、





2000年代初期に2人だったサイコパス型犯罪は、2000年代後半に急成長しました。カン・ホスは、保険金をとるために火をつけて、奥さんと、奥さんの母を殺害して、性的な快楽を得るために婦女子8人を拉致して暴行した後、殺しました。2000年代の後半に、12人の死刑囚の犠牲になった被害者は67人(平均5.6人)でした。そして、殺人罪で服役したあと出所して、また再び殺人犯罪を犯した人は死刑囚61人の中で7人(11.5%)でした。彼らは、大部分、刑務所で服役期間を終えて出てきたり、仮釈放されてまだ1年が過ぎないうちに、また再び殺人を行いました。サイコパス(psychopath、反社会的人格障害者)という言葉は、ドイツの学者シュナイダーが1920年代に紹介した概念で、残忍な社会悪的な行為を平然に行いながらも、その行為に対する罪悪感と道徳心が存在せず、他人の苦痛に無関心で同情心もない人を言います。彼らにとって他人は単に自分の利益の道具であるだけです。サイコパスの原因に対して、遺伝的な面と環境的な側面がすべて主要な要因であると推測されると明らかにされました。

それなら、はたしてサイコパスは治療することができるのでしょうか。現在まで試みられたサイコパス治療プログラムは、すべて使い道がなかったり、プログラム後に再犯が増加する傾向を見せたことが知られています。現在は、サイコパスを正常に戻す方法は事実上ないと告白されています。専門家 Hare 博士の話によれば、サイコパスは全体人口の1%ほどであると推定されるというので、それなら、私の周囲にも、いくらでもありえるという事実です。はたして、私たちには希望がないのでしょうか。

**この暗やみの背後をご存知ですか** 聖書は本来、人間の始まりと終わりが呪いと滅亡でなく、永遠な祝福の存在であることを語っています。そして科学でも、哲学でも説明できない霊的な存在であることを語っています。魚が水の中で生きて、木は地に根をおろして生きるように、人間は本来、神様のかたちとして創造されて、神様とともにいて、万物を治めて生きるように祝福されました。ところが、目に見えない悪い存在(サタン)にだまされて、神様を離れる罪を犯すようになり、その時から人間の運命はサタンに左右されて、罪と呪いと苦しみの中で陥るようになったのです。それゆえ、理由ないむなしさと不安が訪れてくるようになって、幸せを求めてもがいても犯罪の中で、災いの中で絶えずさまようようになりました。人間は、この問題を解決してみようとあらゆる努力をつくしてみるのですが、善行や哲学、宗教、倫理、道徳ではサタンがもたらす問題を解決することはできないのです。

それで、神様が道を開いてくださいました。エデ

ンの園で神様との約束を破って、離れて、サタンの呪いの中で生きていかなければならない時も、神様は人間のための救いの道を約束されて、全人類が滅びる大洪水の中でも神様は救いの道を備えてくださいました。それがまさに人間が解決できない原罪、その結果に訪ねてきた呪いと災い、運命と運勢、目に見えないサタンの働きを解決するキリスト(Christ)を送られることを約束してくださったことです。そして、キリストがこの世に来られて、人間の罪をあがなうために十字架で罪のない体で死んで、キリストという証拠で復活して、サタンの権威をうち破ってくださいました。私たちがまだ罪人であった時にキリストが私たちのために死なれることによって、神様が私たちに対するご自分の愛を明らかにしてくださったのです。人間が神様に会う道、すべての罪と呪いの災いで解放される道、サタン(悪魔)のしわざを打ちこわして、その手に捕まって奴隷のようにになっている者を解放する道になってくださいました。聖書はその方がまさにイエス様だとおっしゃいます。

それなら、どのように絶えず繰り返す呪いと犯罪の問題から解放されて救われるのでしょうか。イエス様をキリストと信じて、私の心に受け入れれば良いのです(ローマ人への手紙 10:9-10、ヨハネの福音書 1:12)。この時、神様の霊である聖霊様が私の中に入ってこられ、神様の子どもの身分を得ようになり、犯罪と滅亡をもたらす暗やみの勢力は離れるようになります。いま、この時間にあなたはイエス・キリストを受け入れることによって神様の子どもになって、不幸のすべての悪習と呪いから解放されることができま(ヨハネの黙示録 3:20、ヨハネの福音書 5:24)。真実な気持ちで下の祈りをすればよいのです。

### 神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活され、私のすべての問題を解決されたキリストであることを信じます。いま、私の心のとびらを開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。いま、私の心の中に来てくださって、私の主人になってくださり、私を導いてください。いまから、神様の子どもとなる祝福を味わって生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。

(ヨハネの手紙第一 3:8)

## 香る人生の開始 - 個人化

**香りのマーケティング** この前「あなたは香る人ですか?においがする人ですか?」というコラムを読むようになりました。「この靴は君のだろ」「どうして分かったの?」「これが一番きれいだから…」「本当に?」片思いする女子学生に、正確に点数を取りながら、恥ずかしがる男子学生の姿を想像してみてください。臭いをとるといある繊維脱臭剤の広告は、楽しい想像の羽を伸ばす思春期の美少年の姿を通じて、多く視聴者のきゆう覚を十分に刺激するものでした。この脱臭剤は、市場に発表されて6ヶ月後に140万個を販売して、61%の消費者に認められました。このように「香りのマーケティング」(aroma marketing)は、人間の感覚器官の中で最も敏感なきゆう覚を活用して、顧客を爽快な気分させて、売り上げ上昇を試みるマーケティングの一分野です。アメリカのモネル化学感覚センターのヘルツ博士は「香りは、感情や郷愁と深くつながっている」と話しました。例をあげるなら、人々が無意識にバニラの香りのアイスクリームになつかしさを感じるのは、母乳と似た感じがするためです。それなら、私はどんな香りで人々に記憶されるのでしょうか。香る人でしょうか。においがする人でしょうか。空間や製品に限定されている香りではなく、私自身が香りになったらどれくらい幸せでしょうか。私が行く場所と、出会いの中に、幸せのウイルスをばらまく、香ばしい生活を送るなら、考えるだけでも、とても素敵な人生になるように思います。香りがにおいに勝つように、悪臭がするどんな状況の中でも、私だけの香りで周囲を変化させる人になることを願います。

**個人化** 香りの人生の始まりは、まず、救いをくださった神様の祝福が私のことになることです。この祝福を人を通して味わうのではなく、神様を通して味わうということです。どのように味わえるのでしょうか。福音にはすべてのことがあります、3つのことが入っています。それを私のことにする個人化の作業をしなければなりません。最初に、神様のみことばが私にどのように成就するかを見つけさなければなりません。二番目、実際に祈りがなっていく、実際に祈りの答えを受けなければなりません。この時、三番目に証人になるのです。それで、今日のみことば、今日の祈り、今日の伝道を正しく握ることができるならば、すべてのことは回復するのです。個人のすべての問題は、祝福の土台で、証拠になります。私の人生の迫害と困難は、むしろ神様の計画とみことばの成就の時刻表になります。神様がパウロが危機に会ったとき、むしろ主役にされたように、私の現場で祝福の主役になるのです。先に、今日のみことば、祈り、伝道が何か探す段階から始めれば良いのです。そうすれば、答えが来る段階がきます。それでは、それを言うしかはない証人段階がくるようになります。この時、はじめて、弟子化、世界化の門が開かれるのです。

### 神様の子どもたちの五つの確信

- 1 救いの確信** : イエス・キリストを信じて受け入れた私は、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15~16、Iヨハネ 5:10~13)
- 2 祈り答えの確信** : 神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 導きの確信** : 神様は聖霊で私の中におられ、私のすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26~27、箴言 3:5~6)
- 4 赦しの確信** : 私のすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さいます(Iヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 勝利の確信** : 救われた私は、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31~37、Iヨハネ 5:4)

### 神様の子どもたちの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



# 幻覚が 見えますか



イラスト\_シン・チョンウン

今は信仰生活をよくしているが、以前にシャーマンだった人が聞かせてくれた話だ。幼い時から目に何かがかすめて、子どものようで、おとなのようなその物体が、いつも自分周辺をぐるぐる回っていたということだ。結局、自分は霊にとりつかれて、シャーマンの道に入るようになった。他の人が私に何かするのではないが、話せない恐れが自分を襲うので、それこそ窓のない監獄生活を自らしながら、ただ悪霊だけを大切にする霊に従う者として生きていた。

いつかはここから出て行ければよいという、心の底には願いがあったが、生活の圧迫と悪霊に押されて苦しめられながら、一日一日をいやおうなしに生きていたある日、自分の状況を理解する伝道者が伝えてくれた福音を聞きながら、私の子どもには絶対にこの苦痛を伝えたくない切実な心で、イエス様をキリストとして受け入れたのだった。

ところで、その日の夜に彼女についていた霊が訪ねてきた。「42年!」と言いながら、雷のような声が聞こえたので、目を開けたら、堂々とした将軍がいつ入ってきたのか立ちほだかっけていて、大きな刃物を部屋の床にさして、よく見てみたら、その刃が空のはてまで触れているようで、若い童子がそのそばで腕組みをして立って、目をむいてすみながら「私、いま寒い?」と言ったそう。この人は、瞬間的な恐れの中でもひざまずいて「神様、私を助けて下さい。私はイエス様をキリストとして受け入れました。私は神様の子どもです!」この言葉が終わるやいなや、その大きい将軍が後にぱったりと倒れ、童子はあっちこっち飛び回りながら「ああ、腹がへった!ああ、腹がへった!」と言いながら消えたということだ。その後も、こういう幻覚が何度か見えたが、結局は、すべて消えて、いまは何も目に見えないと言った。

人の目に見えることは、自然の環境の下での観測

だ。しかし、霊的な事実が目で見られるのは、脳の錯覚現象であるか、そうでなければ悪霊のしわざだ。この頃は、こういう状態が頻りに現れるので、多くのファンタジー小説と映画などを通じた映像媒体で、そのような現場が当然のように紹介されるが、事実は当然ではいけない状況だ。子どもたちの目にむなしいことが見えて、私たちの周囲に霊が漂うのが観測されるのは、正常な状況ではないのだ。目には見えることだけ見えて、見えてはいけないことは見えないのが当然のことだ。

ところで、かえっておかしな幻覚がすごいと思われて、その個人の恐れと苦しめられることは関係なく、すばらしい経験のように誇張するのは、多くの問題をもたらすようにさせる。

それなら、こういう現象はなぜ現れるのであろうか。それは、その人が持っている個人の独特の状況と関係している。本来、人間は完全な人間で、すべての創造世界の秩序体系を治めることができる位置を持っていた。しかし、人間がだましの天才であるサタンにだまされたので、その地位を奪われた後に、かえってサタンの支配の下に置かれたので、サタンの支配領域の中で、人間が霊的なことと精神的なことでの混乱が現れたのだ。目で見えるのは、その個人には事実だが、真実を言うならば、その事実はだます背景の中に隠れているサタンのしわざだ。苦しい幻覚を与えるサタンの実体は、その位置を抜け出してこそ解放されることで、その時に真の事実を知ることができるのだ。偽りの事実には押しえられて苦しめられた幻覚を、いまはこれ以上、見なくなった自由を得たシャーマンのように。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)